

幹重量の大きいカラマツを開発しました

1. 概要

国立研究開発法人森林総合研究所林木育種センター東北育種場では、幹重量（二酸化炭素吸収・固定能力）の大きいカラマツ6品種を開発しました。

2. 開発品種と開発までの経緯

1) 開発した品種

品 種 名
幹重量（二酸化炭素吸収・固定能力）の大きいカラマツ 精英樹 日高5号（支）
幹重量（二酸化炭素吸収・固定能力）の大きいカラマツ 精英樹 後志33号（支）
幹重量（二酸化炭素吸収・固定能力）の大きいカラマツ 精英樹 工盛岡2号
幹重量（二酸化炭素吸収・固定能力）の大きいカラマツ 精英樹 工遠野2号
幹重量（二酸化炭素吸収・固定能力）の大きいカラマツ 精英樹 工中新田3号
幹重量（二酸化炭素吸収・固定能力）の大きいカラマツ 精英樹 岩村田9号

2) 開発までの経緯

東部育種区¹に設定した検定林において、材積及び容積密度²から幹重量³を求め、幹重量の5段階評価で4以上、20年次以降の樹高及び胸高直径が中程度以上、幹曲がりに著しい欠点無く病虫害に脆弱でないものを選定し、幹重量（二酸化炭素吸収・固定能力）の大きい品種として開発しました。

3. 開発の意義と今後の活用

これらの品種を採種園⁴に導入することで、成長及び材質に優れた木材生産のための苗木が生産され、このことにより林業経営の向上に資するとともに、生産された木材が住宅や家具に利用されることで木材中の炭素を長期間にわたって維持されることが期待されます。

(用語解説)

- 1.東部育種区：林木育種事業での地域区分を表し青森県、岩手県、宮城県の地域を指す
- 2.容積密度：単位体積あたりの重さ。一定の強さでピンを木材に刺して打ち込みの深さを測定する機器（ピロディン（Pilodyn：スイス proceq 社製））で木材の密度の簡易推定を行う。ピンが浅く打ち込まれるほど、木材の密度は高いとされる。
- 3.幹重量：幹の部分の木材の重さで、材積×容積密度で求める。
- 4.採種園：苗木の生産に必要な種子を採取するために設けられた樹木園。

担当・連絡先：国立研究開発法人森林林総合研究所
林木育種センター東北育種場
育種課：織部、井城、那須
電話：019-688-4517
住所：岩手県滝沢市大崎 95

(参考1) 今回開発された品種



カラマツは林業種苗法による移動の制限はありません